

第7回 JSGaA 日本ステンドグラス作家協会展  
2019東京 “EMOTION VII 感動”  
公募 最優秀賞 下村幸郎様

僕の郷土・倉敷には、名だたる文豪や芸術家と交流を結び、  
編集者・随筆家でもあり、明治詩壇の頂きに立った詩人・薄田  
泣菫がいます。

彼は、急速に近代化する明治の世で、日本の古語を後世に  
遺すべく、“新体詩”と呼ばれる詩の形を完成させました。

本作は、そんな彼の詩作に対する情熱に感動して制作しま  
した。

あえて時代遅れの古語を散りばめ詩作した泣菫に倣い、あえて  
ステンドグラスの命である光を通さない黒いガラスを、生成の  
表情は勿論のこと、サンドブラスト・透かし・金継などの工夫  
を凝らし、外光の反射・吸収によって表情に変化を持たせました。

花々には、光を透過するガラスを花々の姿に忠実に切り繋ぎ  
水流にはフュージングガラスを用いました。

彼の生きざまを、深夜に咲き誇る花々と水流で表現しました。  
この度の受賞はもとより、ステンドグラスで結べた縁(えにし)  
に感謝の想いが絶えません。



下村幸郎様受賞作品  
冬夏水仙風屏風

新会員紹介コーナー

大門一夫 (ステンドグラス工房 ダイモン)

この度は、日本ステンドグラス作家協会に入会させていただ  
きまして、有難うございました。今までは、兵庫・大阪を中心  
に勉強して参りましたが、視野を広げ精進したいと存じます。

見る人に安らぎを  
与え、時には夢を与  
え、時には興奮させ  
ることのできる作品  
を制作してゆきたい  
と存じます。  
どうぞよろしく  
お願い致します。



● 活動報告 \*\*\*\*\*

2019. 9 第一回実行委員会

● 活動予定 \*\*\*\*\*

2019. 11 第二回実行委員会  
2020. 4 通常総会(会場未定)



第8回 JSGaA 日本ステンドグラス作家協会展

2020東京 “EMOTION VIII 感動”

【会期】2020年5月12日(火)～17日(日)

【会場】東京都美術館ギャラリーA

● 一般公募のお知らせ ●

次回(2020年5月)東京都美術館で開催される  
当協会展の一般公募作品を募集しています  
応募の受付期間は

**2020年1月10日～2月10日(必着)**

\*詳細は、HP または 事務局までお問合せください

ホームページ  
<http://jsgaa.org/>

\*本協会への入会希望・お問い合わせは事務局及び各会員まで  
お願い致します

発行日	2019年10月15日
発行者	日本ステンドグラス作家協会(JSGaA)
事務局	〒108-0074 東京都港区高輪 4-2-7-201 林 晶子(A工房)
編集者	info@jsgaa.org 〒737-0124 広島県呉市広中新開 2-14-19 花田良子(アトリエ レガール)
	TEL 0823-65-2528 後藤 栄(Stained Party) TEL 0586-85-8268



日本ステンドグラス作家協会

**JSGaA**

会報誌vol.22

2019年10月

# 研修会報告

鈴木 孝

平成も終わりに近づいた4月15日。本協会の通常総会に合わせて、会員の今後の制作活動に資する為、研修会が実施されたので、概要を報告します。研修は、「大阪市中央公会堂」と「大阪カテドラル聖マリア大聖堂」の視察の形で行われました。

## 大阪市中央公会堂

大阪市北区中之島 1-1-27  
TEL 06-6208-2002  
<http://osaka-chuokokaido.jp>

大阪・中の島の緑と水に囲まれ赤レンガが映える公会堂は、文化・芸術・社会活動の場として利用されているレトロ建築である。建物は鉄骨煉瓦造の地上3階、地下1階。ネオルネッサンス様式を基調としつつ、バロック的な壮大さを持っている。



アーチ状窓部分(外観)

竣工は、大正7年(1918)、設計者は明治時代の建築界を代表した岡田信一郎と辰野金吾ら。2002年には改修工事が終了し、80年ぶりに竣工当時の姿として甦った。

アーチ状の屋根と特別室の「天地開闢」が描かれた天井画・壁画と窓の「鳳凰のステンドグラス」が特徴である。



特別室をはじめ、大・中・小の集会室は、シャンデリア、ステンドグラスなど、宮殿を彷彿とさせる創建当時の作りで、こだわりを感じる。



特別室に入ると宮殿のような豪華さと雰囲気圧倒された。アーチ状の窓一面には、ステンドグラスが施されている。慶祝の象徴である鳳凰と大阪市の市章「みおつくし」がデザイン化されている。アンバーを基調とした色調と多用されたロンデルが落ち着いた雰囲気の中にも豪華さを演出していた。改修工事の時にレストレーションが行われており、経年変化はみられなかった。

## 大阪カテドラル聖マリア大聖堂 (カトリック玉造教会)

大阪市中央区玉造 2-24-22  
TEL 06-6941-9700



1894年、玉造の地に誕生した聖アグネス聖堂は戦災によって消失したが、ザビエル来日400年記念の年に建設された聖フランシスコ・ザビエル聖堂に引き継がれ、1963年現在の「聖マリア大聖堂」となった。

聖マリア大聖堂は、鉄骨鉄筋コンクリート建て、建坪2450㎡、軒高20m、青銅板葺きの大加蓋で、大小およそ100個の窓には、ベニス工房・羽瀧紅州の作によるステンドグラスが施され、イエスキリストの生誕と洗礼、聖母マリアの生涯、そして小聖堂には日本人に福音を伝える聖フランシスコ・ザビエルが描かれている。



聖堂内は左右の窓一面の巨大なステンドグラスに囲まれていて、とても美しい荘厳な光に満ちていた。また、芸術院会員・故堂本印象画伯の筆による聖母マリアが正面の壁面に、左右壁面には、「細川ガラシャ」や「高山右近」が描かれていて、和洋の融合が感じられた。ステンドグラスのデザインは、比較的新しい印象で、わかりやすいシンプルなラインが用いられていた。ケイムは、全ハンダが施されていて綺麗なブラックのラインが際立つ作品であった。



\* 大阪市中央公会堂は、国重要文化財。建物内のステンドグラスは、三崎彌三郎(デザイン)・木内真太郎(製作)。中集会室の天井にも、たくさんの円形ステンドグラスが。

## 『日本ステンドグラス作家協会設立10周年』

事務局長 林晶子

改元に当たる今年、令和元年は、当会の設立10周年の年となりました。

日本ステンドグラス作家協会の目標のひとつ、ステンドグラスを建築、造形、光の空間等において独立した美術作品として広く一般に問いかけてゆく試みは、東京都美術館での展示により、今や達成されつつあります。

また、各会員による個性あふれる作品、各年毎発行の冊子は、ステンドグラス愛好者の裾野を広げる一端にも寄与しています。

会員は各方面での活躍、新しい技術・手法の研究にこれからも挑戦し、より強い会の基盤を支えています。三浦啓子会長のもと、厳選された会員による、日本を代表するステンドグラスの会としての誇りの中にしっかりと歩み続けてまいります。

会がより良い会となることを願い、次年度からも充実した会員展となることを毎回の目標として団結してゆこうと思っております。



“EMOTION VII 感動”  
於) 東京都美術館  
2019.5.11 ~ 5.18



入場者数 5011名  
協会展終了のお知らせと同時に自然と沸き上がった拍手に、素晴らしい会員の輪とガラスの醸し出す美しい力を感じました。



4.14 通常総会  
(西宮市大学交流センター)  
4.15 研修(大阪市中央公会堂他)